

2025年度 輪島市災害たすけあいセンター 運営支援事業報告書

経緯と概要	2
①地区別被災状況分析	3
②地区別サロン開催状況分析	10
③休眠預金活用事業	13
④今後3年間の予測と提言	18

2026年3月
一般財団法人ダイバーシティ研究所
<https://diversityjapan.jp>

経緯と概要

一般財団法人ダイバーシティ研究所（以下、当研究所）では輪島市災害たすけあいセンター（以下、たすけあいセンター）から委託を受け、能登半島地震における被災者の生活再建支援の早期化と誰も取り残さない支援体制構築に向けた事業を2025年度に実施した。

2025年度は災害公営住宅建設の検討が始まるなど、生活再建に向けた取り組みが進む一方、被災者間の「格差」の拡大が懸念された。生活再建が進まない居住問題長期化や高齢者の生活力低下等の生活の格差と、人口減による地域コミュニティ衰退や復興整備の遅れ等の地域の格差の二面において、課題の対策と未然に課題発生を防ぐための取り組みが求められた。特に、地域コミュニティ再建は輪島市の重点取組項目¹⁾となっており、地域コミュニティの再構築・育成により、日常生活を支える地域コミュニティの再建を促すための基礎情報の分析を行った。

また、当研究所が休眠預金活用事業「中国5県における発災時の相互支援体制構築に向けた地域の支援団体育成・強化事業」の助成を受けて実施した「災害ケースマネジメントに基づく再建支援機関の運営支援および相談員育成事業」²⁾において、巡回見守り活動を担う職員への見守りスキル向上研修の実施、災害ケースマネジメントに基づく被災者支援活動の実務をまとめたガイドブックの作成、中国5県における被災者支援経験者や研究者と輪島市を結び助言や情報共有を行う連携会議の開催を通じて、被災者支援体制の強化を図った。

以上の経緯を通じて、以下の4事業を実施した。

- ① 地区別被災状況分析：輪島市を20地区に分け、各地区の住家被災状況と世帯属性を指標化し地区特性を明らかにした
- ② 地区別サロン開催状況分析：各地区の被災者を対象としたサロン開催状況を調査し地域コミュニティ活動の状況把握を行った
- ③ 休眠預金活用事業：見守りスキル向上研修の実施、被災者支援ガイドブック作成、中国5県と輪島市を結ぶ連携会議の開催を実施した
- ④ 今後3年間の予測と提言：今後3年間の被災者生活状況の予測と生活再建支援活動への提言を行った

1) 輪島市復興まちづくり計画 基本計画 P. 27
<https://www.city.wajima.ishikawa.jp/docs/2025021400019/>

2) 事業詳細 | 休眠預金活用事業 情報公開サイト
<https://johokoukai.janpia.or.jp/result/F201288/>

① 地区別被災状況分析

- 2026年1月1日現在の地区別世帯状況をたすけあいセンターkintone情報をもとに分析する
- 以下に示す地区別世帯数について、高齢者、乳幼児の状況を基礎情報として明らかにする
- 住まい情報、生活情報を罹災証明認定と住民基本台帳から分析して地区別に整理する
- 地区別の住まいおよび生活状況の判定指標を作成し、地区別の分布図を作成する
- 4象限判定をもとに地区別の支援案を検討する

2026年1月1日地区別世帯数

河井	海士	鳳至	輪島崎	大屋	河原田	鶴巣	町野	南志見	三井	西保	仁岸	阿岸	黒島	諸岡	門前	本郷	浦上	七浦	合計
1,450	150	837	208	2,064	712	452	790	282	534	196	301	195	157	344	624	262	209	191	9,958

基礎情報→アプリ：住民基本台帳20260101（19,611人）を分析、地区別に整理

住家被災情報（kintoneアプリ分析）

アプリ：罹災証明データ20250209から地区別の罹災証明認定割合を分析

地区別の住家被災状況指標化

全壊10、大規模半壊8、中規模半壊7
半壊6、準半壊5、準半壊に至らない3
無被害0、無記名0

を各罹災証明認定項目の割合と掛け合わせた数の合計に10を乗じた数を地区別の住家被災状況指標とする

世帯属性情報（kintoneアプリ分析）

上記基礎情報から
世帯番号、世帯人数、地区名、前期高齢者数、後期高齢者数、
前期高齢者独居、前期高齢者のみ居住、後期高齢者独居、後
期高齢者のみ居住、乳児数、幼児数を抽出

地区別の世帯属性指標化

前期高齢者独居3、前期高齢者のみ居住2、後期高齢者独居5、
後期高齢者のみ居住4、前期・後期高齢者混合居住3、乳児数3、
幼児数3

を世帯属性項目の割合と掛け合わせた数の合計に10を乗じた数の合計を地区別の世帯属性指標とする

地区別の分布図作成

分析に用いた地区は輪島市災害たすけあいセンターでの分類に従って設定

- 01 マリントウン
- 02 河井
- 03 海士
- 04 鳳至
- 05 輪島崎
- 06 大屋
- 07 河原田
- 08 鶴巣
- 09 町野
- 10 南志見
- 11 三井
- 12 西保
- 13 仁岸
- 14 阿岸
- 15 黒島
- 16 諸岡
- 17 門前
- 18 本郷
- 19 浦上
- 20 七浦

①-1 住民基本台帳ベースの世帯属性（実数）

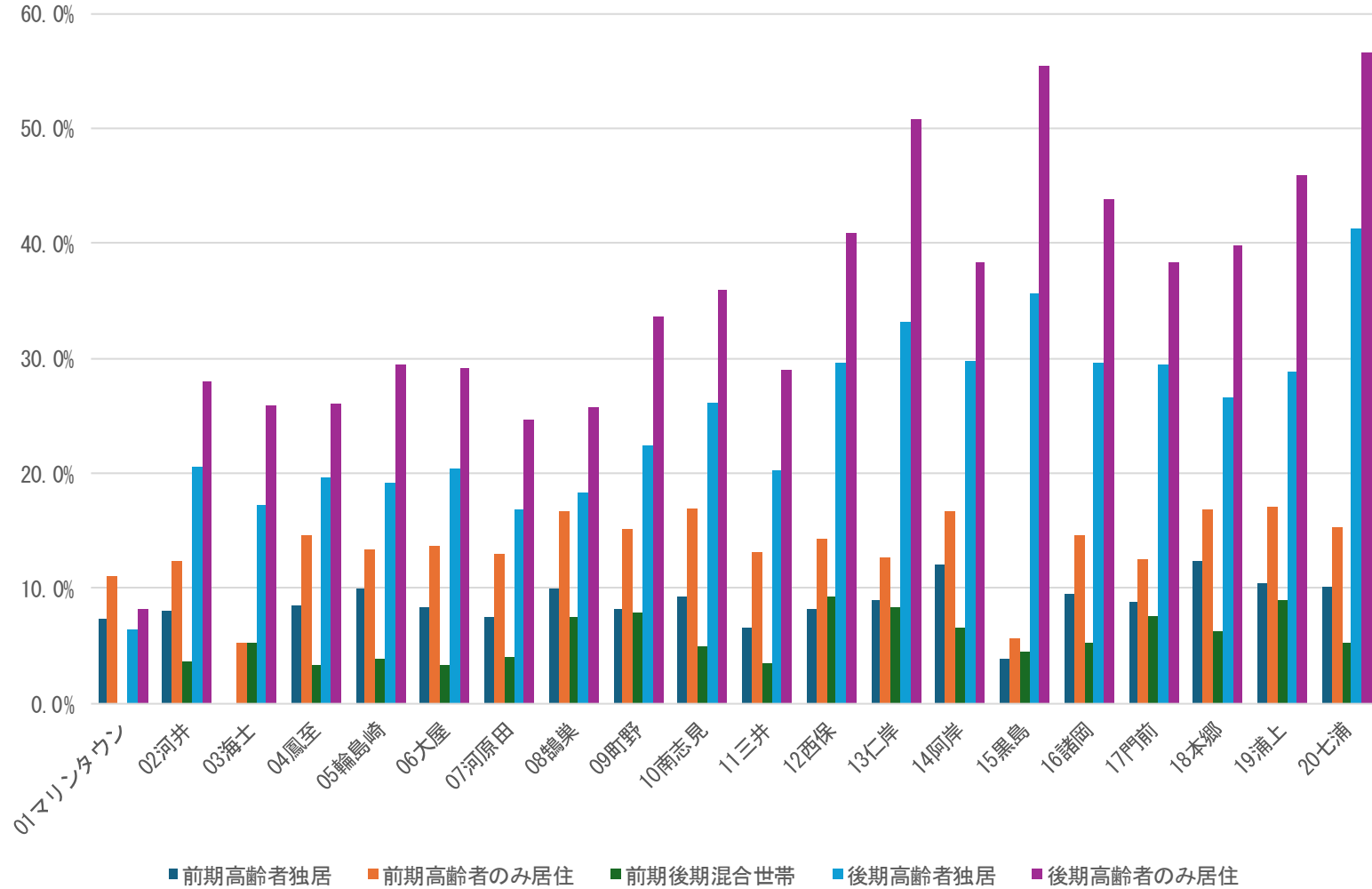
- 2026年1月1日現在の住民基本台帳データ（たすけあいセンターkintoneから抽出）をもとに分析
- 住民基本台帳上の住所から地区（たすけあいセンター設定の20地区）を分類
- 前期高齢者（65歳以上75歳未満）、後期高齢者（75歳以上）
- 乳児は1歳未満、幼児は1歳以上で就学前
- 各世帯の人数から対象者数、独居や対象者のみ世帯数を抽出

地区名	人数	世帯数	前期高齢者 独居	前期高齢者 のみ居住	前期後期 混合世帯	後期高齢者 独居	後期高齢者 のみ居住	乳児居住 世帯	幼児居住 世帯	合計
01マリンタウン	271	109	8	12	0	7	9	1	9	46
02河井	2,562	1,329	107	165	47	273	372	8	44	1,016
03海士	127	58	0	3	3	10	15	0	2	33
04鳳至	1,856	867	74	126	28	170	225	6	31	660
05輪島崎	581	261	26	35	10	50	77	0	9	207
06大屋	3,825	1,878	156	257	63	384	548	7	58	1,473
07河原田	1,756	850	63	110	34	143	210	4	46	610
08鶴巣	919	444	44	74	33	81	114	0	10	356
09町野	1,546	790	65	120	62	177	266	3	5	698
10南志見	566	283	26	48	14	74	102	0	4	268
11三井	1,167	611	40	80	21	124	177	0	12	454
12西保	356	196	16	28	18	58	80	1	0	201
13仁岸	520	301	27	38	25	100	153	0	1	344
14阿岸	334	198	24	33	13	59	76	1	3	209
15黒島	254	157	6	9	7	56	87	2	3	170
16諸岡	638	344	33	50	18	102	151	1	9	364
17門前	1,172	623	55	78	47	183	239	2	11	615
18本郷	624	339	42	57	21	90	135	0	1	346
19浦上	250	135	14	23	12	39	62	2	1	153
20七浦	286	189	19	29	10	78	107	0	0	243
合計	19,610	9,962	845	1,375	486	2,258	3,205	38	259	8,466

該当が100世帯以上を赤色で表示

①-2 住民基本台帳ベースの世帯属性（割合）

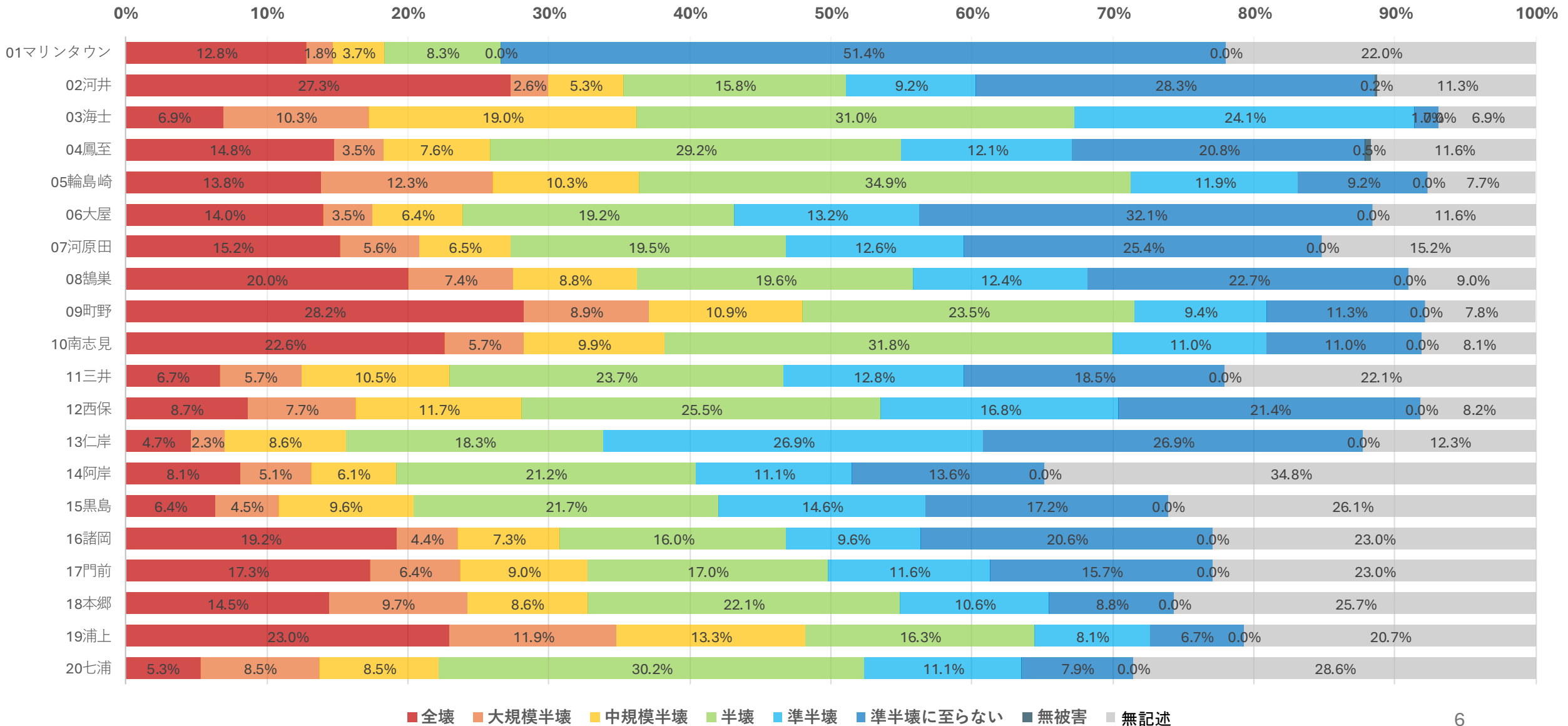
- ・各地区の世帯数に対する割合
- ・「のみ居住」に「独居」は含まれる



地区名	前期高齢者 独居	前期高齢者 のみ居住	前期後期混 合世帯	後期高齢者 独居	後期高齢者 のみ居住
01 マリントウン	7.3%	11.0%	0.0%	6.4%	8.3%
02 河井	8.1%	12.4%	3.5%	20.5%	28.0%
03 海士	0.0%	5.2%	5.2%	17.2%	25.9%
04 鳳至	8.5%	14.5%	3.2%	19.6%	26.0%
05 輪島崎	10.0%	13.4%	3.8%	19.2%	29.5%
06 大屋	8.3%	13.7%	3.4%	20.4%	29.2%
07 河原田	7.4%	12.9%	4.0%	16.8%	24.7%
08 鶴巣	9.9%	16.7%	7.4%	18.2%	25.7%
09 町野	8.2%	15.2%	7.8%	22.4%	33.7%
10 南志見	9.2%	17.0%	4.9%	26.1%	36.0%
11 三井	6.5%	13.1%	3.4%	20.3%	29.0%
12 西保	8.2%	14.3%	9.2%	29.6%	40.8%
13 仁岸	9.0%	12.6%	8.3%	33.2%	50.8%
14 阿岸	12.1%	16.7%	6.6%	29.8%	38.4%
15 黒島	3.8%	5.7%	4.5%	35.7%	55.4%
16 諸岡	9.6%	14.5%	5.2%	29.7%	43.9%
17 門前	8.8%	12.5%	7.5%	29.4%	38.4%
18 本郷	12.4%	16.8%	6.2%	26.5%	39.8%
19 浦上	10.4%	17.0%	8.9%	28.9%	45.9%
20 七浦	10.1%	15.3%	5.3%	41.3%	56.6%

①-3 罹災証明認定の地区別分類

・ 罹災証明データ（たすけあいセンターkintoneから抽出）をもとに分析



①-4 地区別の住家被災状況、世帯属性を指標化

• 地区別の住家被災状況指標化

重みづけ乗数を 全壊10、大規模半壊8、中規模半壊7、半壊6、準半壊5、準半壊に至らない3、無被害0、無記名0 とし、

各地区の罹災証明認定項目の割合と重みづけ乗数を掛け合わせた数の合計に-10を乗じた数を地区別の住家被災状況指標とする

例： 全壊10%、大規模半壊15% の場合
 $(10 \times 0.1 + 8 \times 0.15) \times (-10) = -22$ が住家被災状況指標

• 地区別の世帯属性指標化

重みづけ乗数を 前期高齢者独居3、前期高齢者のみ居住2、後期高齢者独居5、後期高齢者のみ居住4、前期・後期高齢者混合居住3、乳児数3、幼児数3とし、

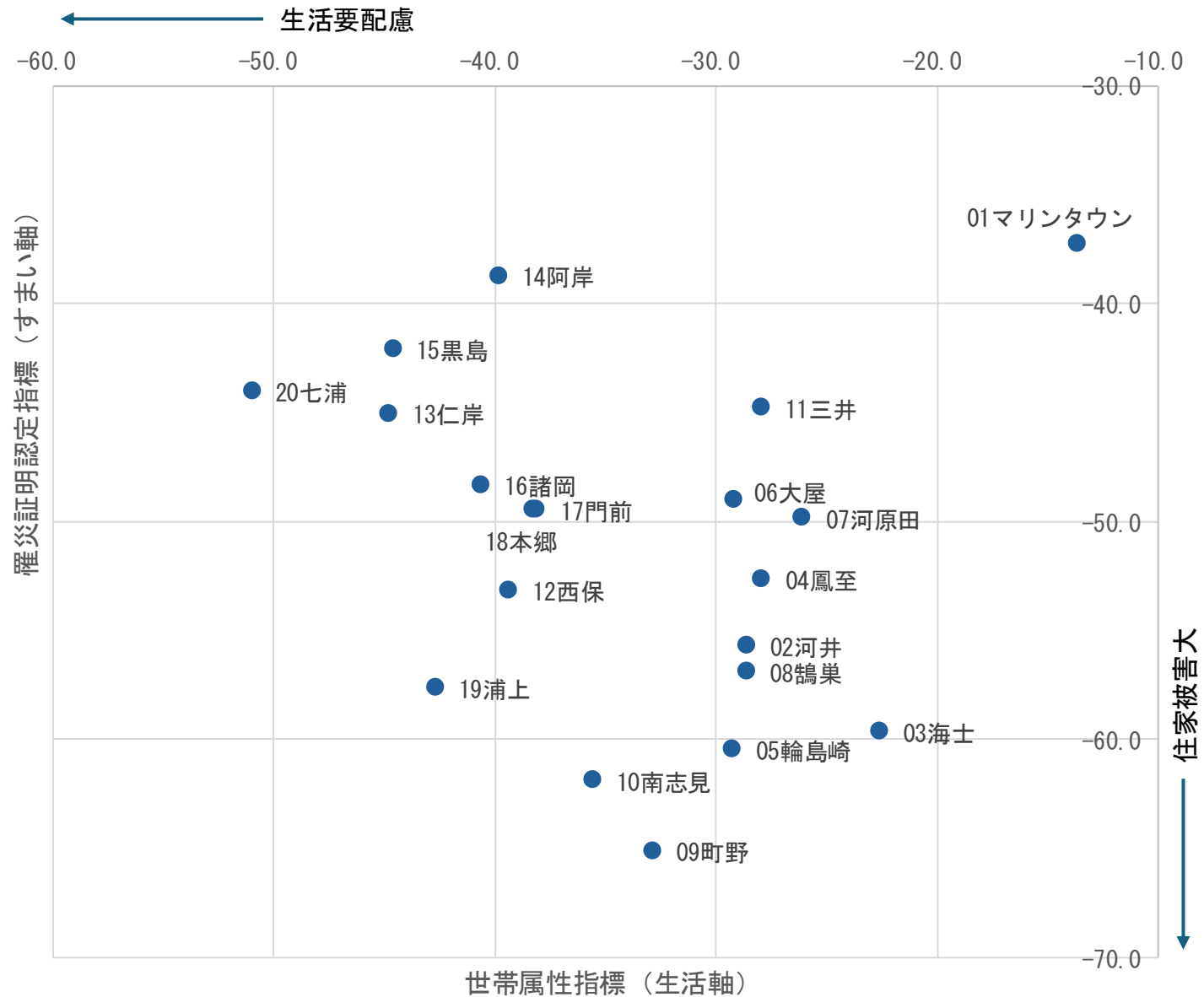
各地区の世帯属性項目数と重みづけ乗数を掛け合わせた数の合計を地区世帯数で割り、-10を乗じた数を地区別の住家被災状況指標とする

例： 前期高齢者独居20、後期高齢者独居10、後期高齢者のみ居住5、地区世帯数100戸の場合
 $((20 \times 3 + 10 \times 5 + 5 \times 4) / 100) \times (-10) = -13$ が世帯属性指標

地区名	世帯属性指標 (生活軸)	罹災証明認定指標 (すまい軸)
01マリンタウン	-13.7	-37.2
02河井	-28.6	-55.7
03海士	-22.6	-59.7
04鳳至	-27.9	-52.7
05輪島崎	-29.2	-60.5
06大屋	-29.2	-49.0
07河原田	-26.1	-49.9
08鶴巢	-28.6	-56.9
09町野	-32.8	-65.1
10南志見	-35.5	-61.9
11三井	-27.9	-44.8
12西保	-39.3	-53.2
13仁岸	-44.8	-45.0
14阿岸	-39.8	-38.7
15黒島	-44.6	-42.1
16諸岡	-40.6	-48.3
17門前	-38.1	-49.5
18本郷	-38.2	-49.5
19浦上	-42.7	-57.6
20七浦	-51.0	-44.0

地区別世帯属性・罹災証明認定指標

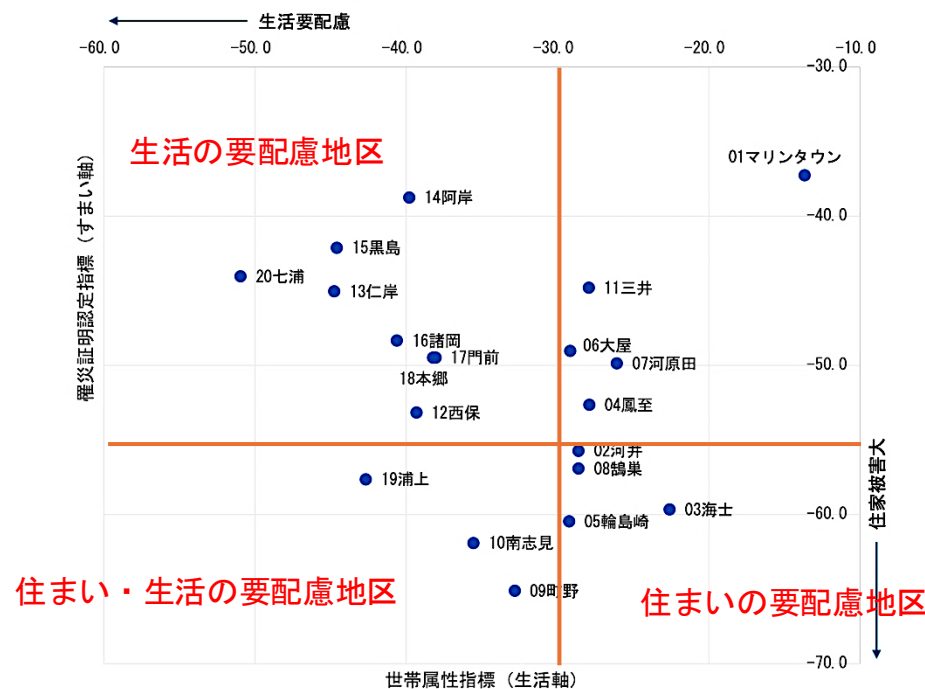
①-5 地区別の住家被災状況（罹災証明認定）指標、世帯属性指標分布図



- ・ 指標はマイナスが大きいほど課題大を示す
- ・ X軸（生活軸）：世帯属性指標
（左に行くほど生活要配慮）
- ・ Y軸（すまい軸）：罹災証明認定指標
（下に行くほど住家被害大）

①-6 地区別被災状況分析考察

- 住民基本台帳ベースの世帯属性分析により、後期高齢者のみ居住世帯の割合が高い地区が以下の通りで、門前町地域が特に高い。
 - 30%以上40%未満：町野(33.7%)、南志見(36.0%)、阿岸(38.4%)、門前(38.4%)、本郷(39.8%)
 - 40%以上50%未満：西保(40.8%)、諸岡(43.9%)、浦上(45.9%)
 - 50%以上：仁岸(50.8%)、黒島(55.4%)、七浦(56.6%)
- 前期高齢者のみ居住世帯の割合はほとんどの地区で15%前後であり、子ども以下の世代との同居割合が比較的高いと推測される。
- 後期高齢者独居世帯の割合が高い地区は以下の通りで、門前町地域が特に高い。
 - 20%以上30%未満：河井(20.5%)、大屋(20.4%)、町野(22.4%)、南志見(26.1%)、三井(20.3%)、西保(29.6%)、阿岸(29.8%)、諸岡(29.7%)、門前(29.4%)、本郷(26.5%)、浦上(28.9%)
 - 30%以上40%未満：仁岸(33.2%)、黒島(35.7%)
 - 40%以上：七浦(41.3%)
- 罹災証明認定では以下の地区の被害が特に大きい。
 - 全壊世帯20%以上25%未満：鶴巣(20.0%)、南志見(22.6%)、浦上(23.0%)
 - 全壊世帯25%以上：河井(27.3%)、町野(28.2%)
- 指標分布図から4象限区分を暫定的に、
 - 罹災証明認定指標区分：-55
 - 世帯属性指標区分：-30
 とすると以下のように区分される。
 今後、指標設定と指標区分を精査し、より実態に近い4象限区分を設定する。



②地区別サロン開催状況分析

- ・2025年度に輪島市社会福祉協議会で開催したサロン（あいちゃんサロン）の内容を分析した。
- ・詳細は別紙「サロン等地区別状況分析.pdf」を参照。
- ・地区分類は公民館情報等と整合させるため、輪島市人口情報の地区区分とした。

	回数		開催内容																	
	回数	参加人数	交流・座談	ゲーム・囲碁将棋	手芸・工作・体験	料理/食	体操・健康・スポーツ	健康講話	生活支援	余暇・エンタメ・音楽（鑑賞）	音楽・演奏・踊り	癒し・心のケア	学び・教養・文化	防災	生活再建・復興	まちづくり・コミュニティ	子ども	住民参加・住民主体	多様性・多世代交流	外部連携
01. 河井	6	88	2	0	2	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	1
02. 鳳至	2	9	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
03. 海士	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
04. 輪島崎	1	14	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
05. 大屋	3	156	1	2	5	1	7	3	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1
06. 河原田	6	43	1	1	2	0	3	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
07. 鶴巣	3	24	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
08. 町野	17	232	2	4	6	0	9	1	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	7
09. 南志見	1	23	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 三井	9	138	0	2	1	0	4	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
11. 西保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
12. 仁岸	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13. 阿岸	2	40	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
14. 黒島	1	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
15. 諸岡	5	88	1	1	0	0	2	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
16. 門前	16	212	0	3	2	0	10	2	0	3	1	1	0	0	0	0	0	1	0	2
17. 本郷	5	91	0	1	2	3	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0
18. 浦上	3	24	1	2	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19. 七浦	2	33	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
総計	92	1219	10	18	23	4	41	15	10	7	3	4	3	3	3	0	0	1	3	17

※令和7年4月～令和8年3月23日(月)分

- ・「あいちゃんサロン」実施記録より、内容からあてはまるカテゴリにフラグを立てカウントし集計した。
- ・内容が複数のカテゴリにあてはまるものもある。
- ・テーマ別集計の「総計」は延べ回数

②-1 地区ごとメモ 輪島地区・東部地区（分析を通じて得られたサロンやコミュニティの情報）

地区	
01. 河井	人口・世帯数は大屋地区に次いで多く、全市の中では子どもの数も多い。仮設住宅はマリントウン含め448戸。本町周辺に長屋タイプの復興公営住宅建設予定。公民館では「体操・健康・スポーツ」系や、子ども向け料理教室などが行われている。中心部でありコミュニティ拠点・施設や支援活動・団体も多い。コミセンマリントウンBASEがある。
02. 鳳至	人口の多い地区で、全市の中では子どもの数も多い。仮設住宅は174戸で、災害公営住宅は木造仮設改修型と集合住宅型で計156戸が予定されている。公民館ではスポーツや子ども向けの活動あり。コミセン鳳至BASEでもサロン活動等行われている。
03. 海士	市内でも人口・世帯数ともに少なく、生活圈・コミュニティ拠点等は近隣の河井・鳳至・輪島崎・大屋等を含め利用していると思われる。
04. 輪島崎	輪島地区の中では高齢化率がやや高め。公民館では料理系の講座・イベントが子どもや男性向けに行われている。
05. 大屋	人口が最も多い。豪雨・地震あわせて12の仮設団地がある。災害公営住宅は木造仮設改修型と集合住宅型で計188戸が予定されている。公民館ではヨガ・ピラティスや手芸、園芸、みんなの食堂、料理等多様な活動があり。外部支援・イベント、支援団体との連携等も。
06. 河原田	豪雨・地震あわせて9の仮設団地がある。災害公営住宅は木造仮設改修型で10戸が予定されている。公民館ではヨガ、手芸、フェイスパック・ハンドクリームといった美容関係のワークショップや、外部支援・イベント、支援団体との連携等も。
07. 鶴巣	高齢化率が5割を超える。仮設住宅は56戸。公民館での定期的な活動・イベントが多い傾向で、健康麻雀、卓球バレー、囲碁等が週1-2回以上行われている。ヨガ・ピラティスといったスポーツ・健康系、支援団体との連携、おそらく外部支援を受け入れる形でのエンタメ・鑑賞系など多様なテーマの活動がある。
08. 町野	高齢化率が6割を超える。仮設住宅は2団地349戸。町野町第2団地は268戸と規模が大きい。災害公営住宅は長屋タイプ60戸と木造仮設改修型で32戸が予定されている。公民館では書道、クラフト、ハーバリウム等「手芸・工作・体験」系が多い。支援団体・住民の活動も。コミセン町野BASEオープン予定。
09. 南志見	高齢化率が6割を超える。仮設住宅は2団地154戸。災害公営住宅は木造仮設改修型で36戸が予定されている。公民館では様々なテーマでの活動が少しずつあり、またいしかわこころのケアセンター、PBV、ブックカフェ等が入っている。
10. 三井	高齢化率は約5割。仮設住宅は2団地88戸。災害公営住宅は木造仮設改修型で25戸予定。公民館活動は他地区と比べても多く、グラウンドゴルフ、卓球等「体操・健康・スポーツ」系が特に多いのが特徴的。句会、詩吟、太鼓等の活動も定期的に開催されている。
11. 西保	高齢化率が約7割に迫る。

②-2 地区ごとメモ 門前地区（分析を通じて得られたサロンやコミュニティの情報）

地区	
12. 仁岸	高齢化率は75%を超え、後期高齢者も57%。仮設住宅は32戸で、災害公営住宅は小学校跡地に長屋タイプ17戸が予定されている。公民館では健康麻雀等の「ゲーム・囲碁将棋」、手芸系、スポーツ系の講座・イベント等が多いが、全般的に多岐にわたるテーマで開催されている。
13. 阿岸	高齢化率が6割を超える。仮設住宅は34戸。公民館ではストレッチ・ニュースポーツ、歩こう会など「体操・健康・スポーツ」系が多く、月1回「阿岸の踊り教室」も。PBV、ブックカフェ等が入っている。
14. 黒島	高齢化率は約7割に迫り、後期高齢者も58%。公民館では定期的な活動が多く、グランドゴルフ（週3）、ボッチャ等の「体操・健康・スポーツ」が目立つほか、太鼓、句会、踊り、脳トレ等も定期開催されている。
15. 諸岡	高齢化率は約6割。仮設住宅は3団地363戸で、道下第1団地は279戸と規模が大きい。コミセン門前BASEがある。災害公営住宅は木造仮設改修型で26戸が予定されている。公民館ではボッチャや卓球など定期的な活動も。令和3年8月現在公民館工事中。
16. 門前	門前地区の中で最も人口が多い。高齢化率は59%。仮設住宅は3団地127戸。災害公営住宅は長屋タイプが70戸が予定されている。公民館活動は、体操・スポーツ系やフラダンス、古文書を読む会、郷土史研究、編み物等、多岐にわたるテーマ・内容で開催されている。子ども向けの体験活動や居場所（宿題をして過ごせる時間）も。
17. 本郷	高齢化率は66%。仮設住宅は36戸、災害公営住宅は木造仮設改修型で19戸が予定されている。公民館では、ピンポンなどのスポーツや手芸系、料理系も開催されている。「女子会」と名の付く活動が月1回。外部連携も多い印象。
18. 浦上	高齢化率は約7割に迫る。仮設住宅は79戸、災害公営住宅は長屋タイプが公民館付近に40戸予定されている。公民館では体を動かす活動や手芸系が活発な様子。金光教、PBV、ブックカフェ等の支援活動が入っている。
19. 七浦	高齢化率は78%と市内で最も高い。仮設住宅は44戸。災害公営住宅は木造仮設改修型で16戸が予定されている。公民館では週2回のパドルテニス、週1回のカラオケ愛好会やかな文字の会、健康麻雀等定期的な開催が多い。

③睡眠預金活用事業

当研究所が睡眠預金活用事業「中国5県における発災時の相互支援体制構築に向けた地域の支援団体育成・強化事業」の助成を受けて実施した「災害ケースマネジメントに基づく再建支援機関の運営支援および相談員育成事業」において以下の事業を実施し、たすけあいセンターの被災者支援体制の強化を図った。

1) 従来の経験・知見を活かした支援者向け生活再建支援ガイドブック作成

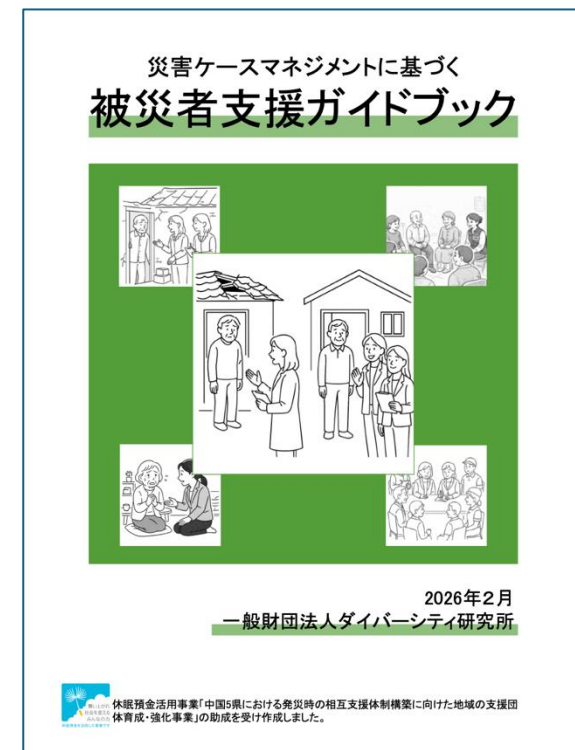
被災者支援記録等をもとにして、生活再建期に発生する諸課題と解決方法を中国5県での被災者支援記録等を中心として整理し、支援者向けの災害ケースマネジメントに基づく具体的な支援ガイドの内容を作成した。

- 第1章 概要と災害ケースマネジメント：本書の概要、災害ケースマネジメントの内容説明
- 第2章 アセスメント調査：被災者生活実態調査の概要と実践を説明
- 第3章 生活再建支援体制の構築：被災者生活再建支援組織の構築を説明
- 第4章 被災者支援活動：巡回見守り、情報提供等の被災者支援活動を説明
- 第5章 支援の担い手確保と育成：見守り等を担う支援員の確保と研修等による育成を説明
- 第6章 事務局の運営：被災者生活再建支援組織の事務局活動を説明

PDFダウンロードWebページ

災害ケースマネジメントに基づく被災者支援ガイドブック - ダイバーシティ研究所

https://diversityjapan.jp/disaster_victim_support_guidebook/



③-1 研修の実施（事前アンケート）

2) 研修の実施

たすけあいセンター職員に対し、研修開催により理解とスキル向上を促し、伴走支援のより適切な立案・実施が可能になることで被災者の生活再建早期化に寄与することを図った。

1. 事前アンケート・ヒアリングの実施

たすけあいセンター職員に対して現状把握のためのアンケートとヒアリングを行い、以下の課題を把握した。

◆戸別訪問について

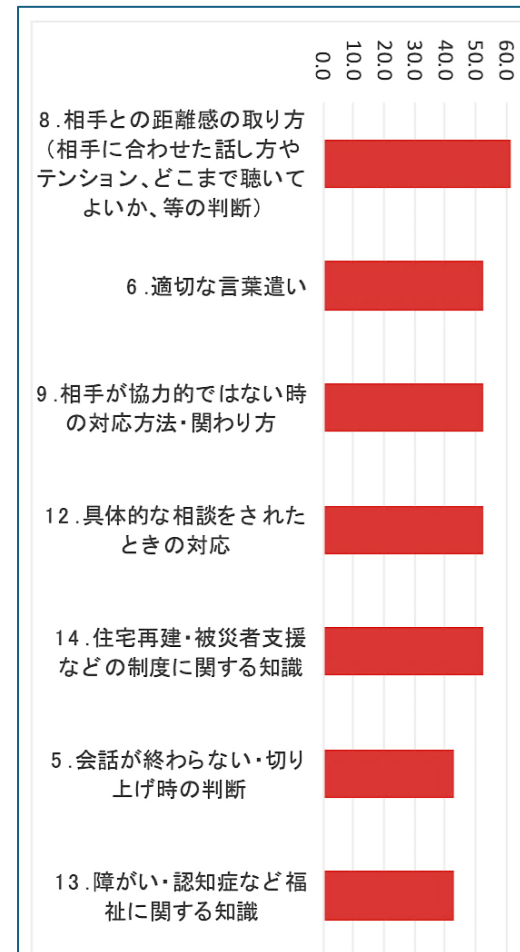
見守り支援員（巡回スタッフ）において、コミュニケーションに関する不安（距離感・言葉遣い・対応判断）が上位を占めており「対人対応スキル」に不安や負担を感じている。

生活支援相談員（輪島市災害たすけあいセンター職員）は、目的の説明やと守秘義務の遵守を重視している。信頼構築や業務トラブル防止の観点から、見守り支援員との意識共有が必要。

生活支援相談員が重視する「訪問目的の説明」や「守秘義務」について、見守り支援員側は「不安・苦勞している点」としてあまり挙げていない。

◆記録について

「どこまで詳しく書けばよいかわからない」（21名中9名）という不安が最も多く挙がっており、記録の「適切な記述の深さ」や「記載の判断基準」について明確な指針が不足している可能性が考えられる。



見守り支援員（巡回スタッフ）21名への「戸別訪問で不安がある・苦勞しているポイント」アンケート（チェックを入れた%）

③-2 研修の実施（第1, 2回）

2. 研修の実施

- アンケート結果に基づいて、見守り支援に必要な基礎知識と対人支援スキルの習得を目標に開催
- たすけあいセンターと協議し、テーマを選定

2025年10月から2026年1月にかけて月1回、計4回実施

講師 渡嘉敷唯之（株）CoAct代表）

講師補佐 宮本裕子（災害支援コーディネーター）

◆第1回 2025年10月14日 オンライン会議 参加者15名

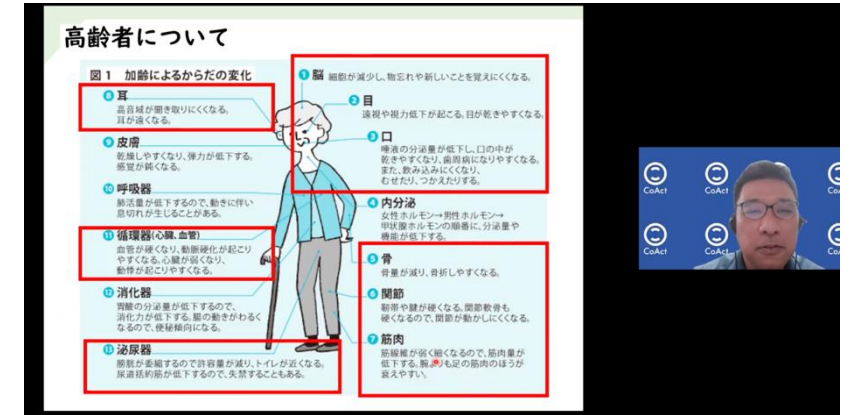
「訪問基礎知識 要配慮者」

- ・高齢者、乳幼児、障がい者の課題、利用できる制度等の説明

◆第2回 2025年11月17日 輪島市災害たすけあいセンター 参加者21名

「訪問基礎知識 支援制度」

- ・被災者支援制度の概要と活用方法を説明
- ・ケース事例をもとにどのような制度が適用できるか討議



第1回開催の様子

本日の目標

支援制度について学ぶ

本日のメニュー

- ・支援制度等の理解の必要性
- ・被災者視点からみた支援ニーズ（別紙）
- ・社協、社福等に求められる支援内容（別紙）
- ・能登半島地震における支援策
- ・支援調整等の基本知識連携先
- ・被災者支援に関する各種制度（概要）
- ・演習（必要な支援を探してみよう）

第2回資料から抜粋

③-3 研修の実施（第3, 4回）と研修の評価

◆第3回 2025年12月02日 ふれあいプラザ二勢（輪島市） 参加者21名

「訪問基礎知識 聞く」

- ・ 聞き取りの基本知識・スキルの講義の後、ロールプレイを行ってより理解を深めた
- ・ 広島県坂町地域支え合いセンター元センター長の木下氏から経験に即した全体の総括があった

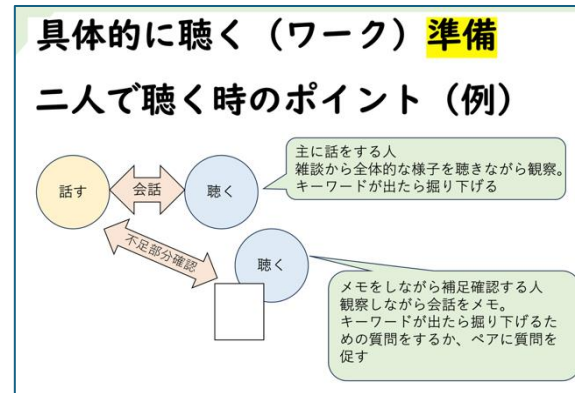
◆第4回 2026年1月13日 輪島市災害たすけあいセンター 参加者24名

「訪問基礎知識 聴く技術」

- ・ 傾聴の技法の講義の後、受講者が話す役と聞き役になるロールプレイを行ってより理解を深めた



第3回開催の様子



第4回資料から抜粋



第4回開催の様子

3. 研修の評価

研修の事後アンケートにおいて86.4%の良判定（24名回答、5段階中4以上）を得た。また、当初の課題を列挙して改善できた項目を選択する設問を設置したところ、回答者数 24 名中、「訪問にあたって注意すべきこと」が 70.8%、「相手との距離感の取り方（聞き方、話し方）」が 58.3%、「適切な言葉遣い」が 50.0%、等の回答があり、研修は十分な効果があったことが検証できた。

③-4 連携会議の開催

3) 連携会議の開催

中国5県の災害対応経験者や有識者との連携会議を定期的を開催することで広く知見を募り、より効果的な支援活動の実施を促進した。

輪島市災害たすけあいセンター運営支援連携会議

委員長 一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村太郎

委員 輪島市災害たすけあいセンター

委員 一般財団法人ダイバーシティ研究所

委員 木下賢一（広島県坂町地域包括センターセンター長・元坂町地域支えあいセンター長）

委員 楊慧敏（県立広島大学 保健福祉学部人間福祉学コース 助教）

委員 菅磨志保（関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科 准教授）

◆第1回 2025年8月4日 オンライン会議

全員が参加し、事業説明の後、今後の進め方について協議した。

◆第2回 2025年12月2日 輪島市災害たすけあいセンター

輪島市災害たすけあいセンター、木下賢一委員、ダイバーシティ研究所が参加し、災害から2年以降の被災者支援状況を広島県坂町の例をもとに協議した。

◆第3回 2026年2月16日 輪島市災害たすけあいセンター

輪島市災害たすけあいセンター、楊慧敏委員、ダイバーシティ研究所が参加し、巡回見守り支援やコミュニティ支援における支援方法などについて協議した。



第2回会議の様子

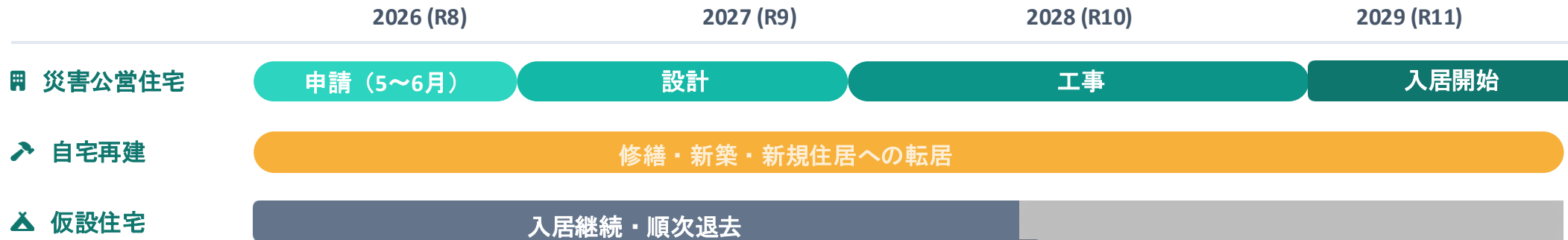
④ 今後3年間の予測と提言

上記分析をもとに今後3年間の状況を予測し、支援活動の目標・内容を提言した。

1) 2026～2028年度に想定される課題予測

1) 2026年度以降の輪島市における復興の現状と課題

2026年4月～2029年3月を視野に



想定される課題：住まい

- ① 移転先が決まらない（仮設住宅居住者、自宅外避難者など）
- ② 修繕・新築の遅れ（資金不足、業者不足、断念など）
- ③ 住環境変化による課題（生活様式の変化、慣れない土地）

想定される課題：生活・心身

- ④ ト라우マ・不安の長期化（家族離別、将来不安による心身不調）
- ⑤ 生活不活発による機能低下（閉じこもり、認知機能低下）
- ⑥ 地域コミュニティ機能の衰退（周囲の居住状況変化、孤立）

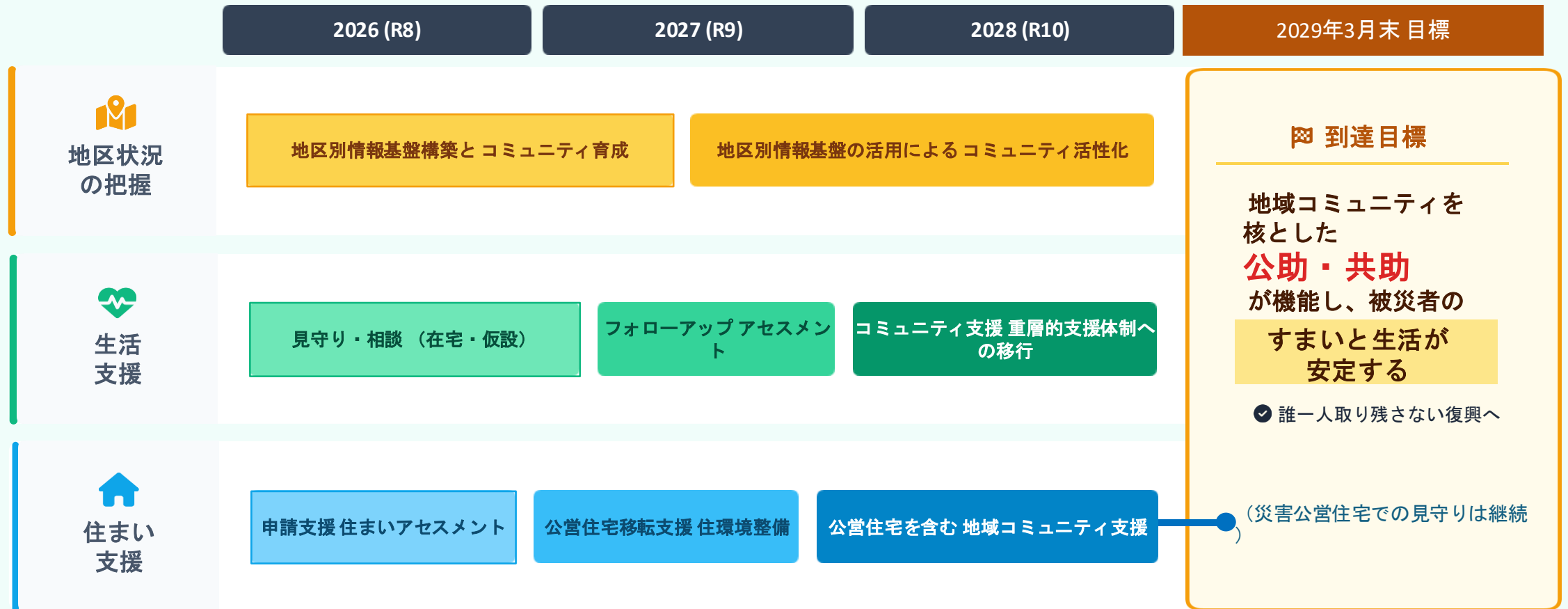
⚠ 復興が進むにつれ「格差」の拡大が露呈

- 世帯間の格差（再建速度・健康状態）
- 地域間の格差（人口減少・拠点整備の遅れ）

2) 今後3カ年に渡る見守り活動のロードマップを作成し、3年後の到達目標を設定

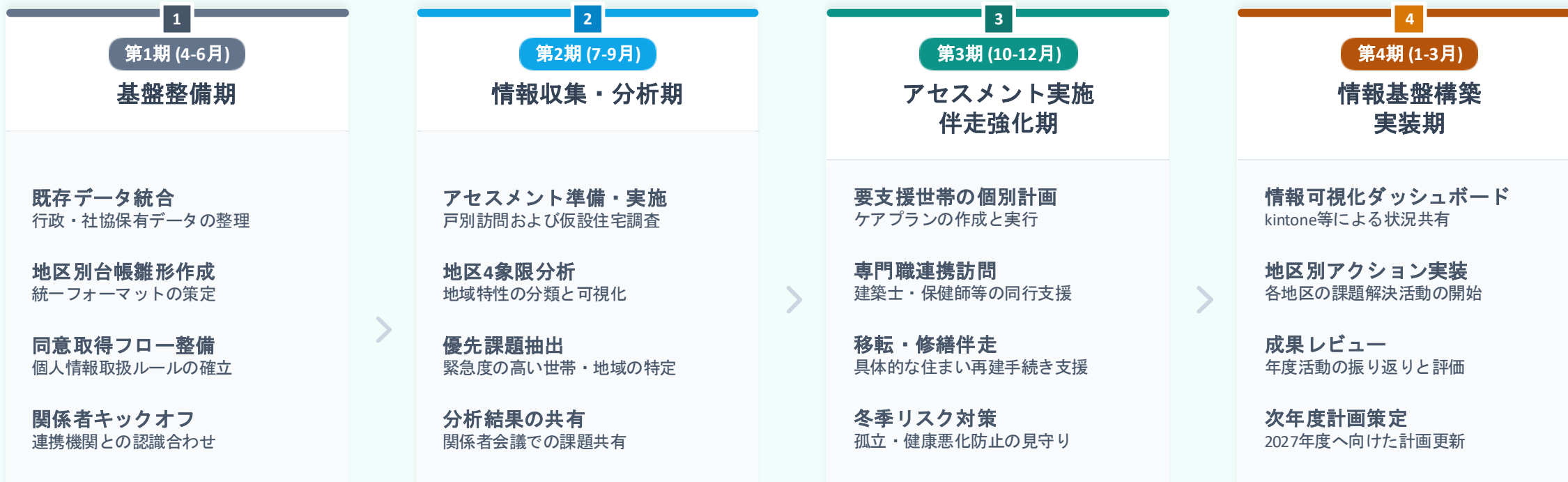
2) 見守り活動の円滑な移行を見据えた「ロードマップ」

2026年度～2029年3月



3) 2026年度の重点活動(四半期毎)

フェーズ別アクションプラン



期毎のKPIとして「地区別の訪問達成度」「災害起因による支援の終了割合」を設定し、達成状況を確認

📌 2026年度末 達成目標の例

地区別情報基盤が構築され、世帯の住まい見通しと地域コミュニティ復旧見通しが明らかになる

◎ まとめ／今後の展望と社協の使命

📅 2029年3月までに実現すること

 全ての被災世帯の住まいの安定

 地域コミュニティ機能の回復と強化

 公助・共助が機能する支援体制の確立

 世帯間・地域間「格差」の解消

🛡️ 社協が果たす中核的役割



伴走型支援の実践

一人ひとりの状況に応じ、世帯に寄り添い続ける相談支援



コミュニティ再生

地域のつながりを再構築し、住民主体の活動を活性化



データに基づく支援の推進

情報基盤とデータ分析を活用した、漏れのない支援展開



連携・調整のハブ

行政、専門職、NPO、ボランティアをつなぐ結節点

 誰一人取り残さない復興へ 